

シリーズ 社会福祉法人の力を地域に

～社会福祉法人の地域における公益的な取組を紹介～

社会福祉法が改正され、すべての社会福祉法人は、「地域における公益的な取組」を行うことが責務として規定されました。社会福祉法人の公益性・非営利性など、その本旨に従い、他の事業主体では困難な福祉ニーズへの対応が求められています。

「思いやりの心が大切 ～高齢者についての福祉教育～」

社会福祉法人輪島市社会福祉協議会

社会福祉法人寿福社会

取り組み概要

輪島市社会福祉協議会（以下、市社協）は市内小学校から福祉教育の取組について相談を受けたことから、社会福祉法人寿福社会に協力をお願いし、双方が連携した福祉教育プログラムを実施しました。福祉の心を育むことを目的に、介護の技術や高齢者について学ぶだけではなく、介護の現場で働く専門職のお話を交えたプログラムとなりました。



1人1人が大切な人であり、助け合う地域づくりに必要な存在であると伝えました

取り組み内容

市内小学校の5年生18人が参加しました。

高齢者についての学習では、元気に生活するために大切なことと老化についてお話をしました。高齢者疑似体験では、児童は重りやヘッドホン、レンズの曇ったゴーグルを装着して、老化に伴う感覚の変化を体験しました。

車いすについての学習では、児童は車いすの構造や動かし方の説明を受けた後に2人1組となり、車いすを押す体験と押しってもらう体験をしました。カラーコーンとマットが置かれた10m程の直線コースを寿福社会が用意した車いすで、障害物を左右に避ける動作や段差の昇降動作を体験しました。車いすの乗り降りや段差の昇降動作で児童がケガをしないように、施設職員と市社協職員が付き添い、操作のサポートやアドバイスをしました。

～プログラム～

- 8:40 開会あいさつ（市社協、寿福社会）
- 8:40 ～ 9:20 高齢者についての学習
高齢者疑似体験（市社協）
- 9:20 ～ 9:25 休憩
- 9:25 ～ 9:50 車いすについての学習
車いす操作体験（寿福社会）
- 9:50 ～ 10:00 質疑応答等（寿福社会）
- 10:00 閉会あいさつ（市社協、寿福社会）



児童は「思いやりを持って接することが一番大切」との説明をうけて、相手が安心できるよう優しく操作しました

福祉教育の連携を通して

福祉は高齢者や障がい者だけの特別なものではなく、みんなが安心して暮らすためにあるものです。自身も福祉の一部を担っているという意識と、一人一人が大切な人であるという思いやりの心を持ち、みんなが幸せになれることを考えて欲しいです。

福祉施設と連携した取り組みは、施設と市社協の間に繋がりができ、お互いに声をかけやすい関係が築けます。そうすることで、平常時や福祉教育以外の取り組みでも連携が取れるようになり、地域貢献に繋がります。今後も各社会福祉法人と連携をとりながら、福祉教育の実践を進めていきたいと考えています。

【問い合わせ】（社福）輪島市社会福祉協議会 TEL 0768-22-2219

◇◇◇地域における公益的な取組をシリーズで発信していきます。情報をお寄せください。◇◇◇